

自分の能力や興味を生かせるのは、 この仕事だと思った。

青葉未希
(パタンナー)



もっと生の声

Q & A

— 心掛けていることはありますか？

着ていただく方にとって着心地の良い商品を作っていくのが使命だと思っていますので、お客様の要望に沿っているか、学生ならではの動きに対応する機能性は十分か、制服としてフォーマルな印象を与えられるかななどを常に考えています。

— 大変だった仕事はありますか？

通常と異なる位置にダーツを配したデザインのジャンパースカートのパターンを担当したことがあり、完成までに時間がかかりました。ベテランの方にご指導いただいたのですが、自分では気づかなかったアドバイスをたくさんいただき助かりました。やはり経験を積まれた方に助言いただける職場環境は、とてもありがたいと思います。

— 思い出に残っているエピソードを教えてください。

「教育ソリューション事業」の一環として、高校生が考えた制服を、その生徒さんと一緒に打ち合わせをしながら企画・製作したことです。高校生ならではの要望や斬新なアイデアに、とても刺激を受けました。実際に完成した時は、他の仕事とは違った達成感がありましたね。この事業は毎年行っていますので、今後どのようなアイデアが出てくるか楽しみです。

「一枚の布から立体的な洋服が出来上がっていくことが本当に楽しい」という青葉さん。学生時代には家政を学び、特に服作りを通してものづくりの面白さに惹かれたそうです。

現在の担当は、学生服のパターン設計。「工場や企画部署からの要望を聞きつつ、パターンに落とし込んでいます。学生服は、小・中・高校と携わっていますが、それぞれ特性があります。その中でも小学生服はサイズが小さく、実際に着用して確認できないので、パターンのサイズ設定等が難しいですね。」

全国の学校制服のパターンを製作しているため、出先で自分が携わった制服姿の学生を見た時は嬉しくなり、「より良い商品を届けたい！」と励みにもなるそうです。「今まで経験がないパターンをつくるのは難しいです。企画の仕様と実際に工場で作る仕様は違いますので、そこを調整して完成まで持っていくのは苦勞します。でもその経験が、生地の特性を深く理解することにもつながっています。もっと経験を積んで成長し、いつか生地の特性に合わせてパターンを変えていけるようになりたいです。」

